

透析室における清潔保持の試み

ATP 検査ふき取り検査を使用して

博樹会 西クリニック 鈴木敦子 迫田亜希子 竹内貴子

一瀬ゆかり 佐藤浩子 山川浩子 西隆博 西忠博

【目的】当院は、2006年に感染対策委員会を立ち上げ、院内感染対策としてさまざまな活動をしている。今回、透析室の環境整備について、効果的な清掃が行われているか ATP+AMP ふき取り検査、以下 ATP 検査を用い検証したので報告する。

【方法】患者が使用後に ATP 検査を実施、その後ベッド周囲はアルコール清拭、コンソールは 0.1%次亜塩素酸ナトリウムで清拭後、再度 ATP 検査を実施した。(表 1)

【対象】透析室のベッド周囲 (26 床) のオーバーテーブル、ベッドリモコン、ナースコール、血圧測定手動スイッチ、テレビリモコン、コンソールボタンの計 6 箇所を清掃前後で ATP 検査を実施した。(図-1)

【清掃方法】		
	清拭方法	回数
オーバーテーブル	アルコール綿	2回/日
ベッドリモコン	アルコール綿	2回/日
ナースコール	アルコール綿	2回/日
血圧スイッチ	アルコール綿	2回/日
テレビリモコン	アルコール綿	2回/日
コンソールボタン	0.1%次亜塩素酸ナトリウム	使用毎

表-1 2015.2.22 東京透析懇談会 Nishi clinic (図-1) 2015.2.22 東京透析懇談会 Nishi clinic

【結果】コンソールはメーカー推奨の基準値に近づけることができ、オーバーテーブルは、メーカー推奨の基準値内で保たれていた。ベッドリモコンは清掃後で大きな低下は見られず、ナースコール、血圧測定手動スイッチは清掃後でも高値を

示した。接触回数が多いテレビリモコンは、清掃後でも高い結果となり、全体的に清掃後でも低下していないことが検証された。(図—2)



【考察】以上の結果より、清掃前の高値は、患者やスタッフの手洗いが不十分ではないかと考えられた。スタッフへの手洗いの指導は、「1 処置 1 手指衛生」を基本に定期的に申し送りを行い、患者へは、透析室の入退室時に手洗いをを行うよう、ポスターの掲示や院内の災害訓練時に手洗いについての講演をするなどの啓蒙活動をしているが、徹底されていなかった。清掃後の高値は清掃方法に問題があったと考えられた。

【まとめ】今回の検証で、多くの患者が使用する透析室内の汚れを再認識することができた。汚れを数値化することで、スタッフや患者への手洗い指導が十分でなかったこと、感染予防対策を意識した効果的な清掃が十分に行われていないことが検証された。今後は、定期的に ATP 検査を施行し、結果を参考にしながら、清掃後の ATP 値が低下するような清掃方法の見直しやスタッフ、患者への手洗いの指導を継続的に行っていく。